

産業競争力懇談会（COCN）2011年度推進テーマ  
活動企画書（scope of work）

【候補テーマのタイトル】 グローバルもの(コト)づくり

【提案企業・大学・法人】 実行委員会

【提案内容】 プロジェクト or 研究会 （該当に○）

1. 提案の背景・理由

ものづくり産業におけるグローバル化が急速に進行しており、国内においては(人的、経済的、技術的)空洞化が、海外の生産現場・プロジェクトにおいては、人、もの、情報、技術等に係わる種々の問題が生じている。これに加え、今回の震災でものづくりにおけるグローバルサプライチェーン(Global SC)の重要性とその脆弱さが露呈された。産官学の総力をあげてこれらの課題解決に取り組むことにより、日本のものづくり産業の競争力を維持・強化することが不可欠となっている。

2. 産業競争力強化上の目標・効果

- (1) 確実かつコストともバランスしたグローバルサプライチェーンの構築
- (2) ものづくり・コトづくりによる新産業/新製品分野の創生（人的/技術的空洞化の回避）
- (3) グローバル産業/事業の収益力向上（経済的空洞化の回避、海外における利益確保）
- (4) 新興国海外生産拠点（特にアジア）におけるスムーズな生産

3. 提言（報告）に向けての検討内容

人、もの、情報、技術、カネを含めた「グローバルサプライチェーン」の確実性をグローバル競争下において強化することが急務であり、本年度は前記(2)～(4)の視点を考慮した「グローバルサプライチェーン」のあるべき姿を明確にするための検討を行い、具体的な課題解決における官民の役割分担を踏まえた施策等を提言する。

- ものづくり・コトづくりの視点：高い技術レベルの国内拠点のSCへの取込み、コトづくりを考慮したものづくりにおけるSCのあり方等について考察する。
  - 収益力向上の視点：特に今後重要となる大規模複雑プロジェクトの競争力を強化するSCのあり方。
  - スムーズな海外生産の視点：もの、情報等に係わるSCの最適化や国内拠点との連携について議論する。
- 参加企業の新興国における事例も収集し、実態に基づく議論を進める。

4. 推進体制（企業は五十音順）

リーダー：東京大学ものづくり経営研究センター 藤本隆宏教授

リーダー代行：東京大学ものづくり経営研究センター 新宅純二郎准教授、天野倫文准教授

サブリーダー：IHI、日立、富士通 事務局：製造科学技術センター

メンバー：IHI、NEC、清水建設、住友電工、ソニー、東芝、トヨタ自動車、日立、富士通、

富士電機、三菱電機、JX日鉱日石エネルギー、産総研、慶大、法大 わがザンバ：新日鉄

5. 大日程（予定）

11年 6月 プロジェクト発足

10月 中間報告

12年 2月 最終報告

必要に応じて次年度継続

以 上